

研修目的

診療の基本となる臨床検査の各分野における理解と技術の習得を目指す。すなわち、生理検査の基本についても学ぶとともに、骨髓像を含めた血液検査、輸血検査、微生物検査、尿検査を学び、一人でこの検査と報告が出来ることを目標とする。さらに Reversed Clinico-pathological Conference (RCPC)等を通じて、診療に必須な、主に検体系検査データの見方を習得する。

習得できるアウトカム（能力）

1) 必ず習得できるアウトカム（能力）

※習得することで診療科の研修を修了できます。習得できていないと評価を受けた場合は、研修期間が延長となります。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

- ・診療に必要な検査を理解し、選択できるようになる。

B. 資質・能力

1. 超音波検査等の生理検査の基本が理解できる。
2. 細菌検査:グラム染色、培養培地の選択と集落観察、同定検査、薬剤感受性検査の結果の見方が理解できる。
3. 血液検査:末梢血液像の異常が理解できる。
4. 輸血検査:輸血検査と適切な輸血療法が理解できる。
5. 尿検査:尿検査及び沈査所見が理解できる。
6. 検体系検査データを適切に解釈することができる。

C. 基本的診療業務

1. 超音波検査等の生理検査の基本的な手技が行える。
2. 細菌検査:グラム染色、培養培地の選択と集落観察、同定検査、薬剤感受性検査の基本的な手技が行える。
3. 輸血検査:用手法を用いた血液型検査が行える。
4. 尿検査:尿定性検査とともに基本的な尿沈査検査が行える。

2) 研修医の意向により習得できるアウトカム（能力）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

- ・診療に必要な検査を理解・選択し、基本的な検査を実行できるようになる。

B. 資質・能力

1. 超音波検査等の生理検査の基本から応用まで理解できる。
2. 細菌検査:グラム染色、培養培地の選択と集落観察、同定検査、薬剤感受性検査の結果の見方から発展まで理解できる。
3. 血液検査:末梢血液像の異常、正常・異常骨髓像を理解し診断に結び付けられるようになる。
4. 輸血検査:輸血検査と適切な輸血療法が深く理解できる。
5. 尿検査:尿検査及び沈査所見が深く理解できる。
6. 検体系検査データを適切に解釈することができ、次に必要な検査を選択できる。

C. 基本的診療業務

1. 超音波検査等の生理検査の基本的な手技が実行できる。

2. 細菌検査: グラム染色、培養培地の選択と集落観察、同定検査が自律的に実行できる。
3. 血液検査: 末梢血液像、骨髓像の基本的な判読と報告ができる。
4. 輸血検査: 用手法を用いた血液型検査及び交差適合試験が実施できる。
5. 尿検査: 尿検査全般を実行できる。

具体的な指導方法・フィードバック方法（研修方略）

終了時に研修内容を振り返り、次のローテーション先で何を学ぶべきかなど話し合う時間を設ける。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	生理検査室	輸血検査室、または検査部(骨髓像・尿検査・RCPC による検査データの読み方)	
火	生理検査室	細菌検査室、または生理検査室	
水	生理検査室	細菌検査室、または生理検査室	
木	生理検査室	生理検査室、または検査部(骨髓像・尿検査)	
金	生理検査室	細菌検査室、または生理検査室	

指導責任者および指導医

指導責任者： 高橋伸一郎

指導医： 臨床検査専門医 高橋伸一郎

超音波専門医 大原貴裕(兼務)

臨床検査専門医、輸血認定医、血液専門医 沖津庸子(兼務)

学会発表・論文作成に対する指導体制

指導医が必要に応じ、発表のための文献検索、スライド作製、プレゼンテーションなどの指導を行う。